



## 決勝レポート

### 2018/4/22 Rd-1 鈴鹿サーキット

天候：晴れ 気温：22℃ 出走台数：19台

観客数：21日(土)22,000人、22日(日)34,000人 合計56,000人

連日の好天で迎えた開幕戦鈴鹿2&4。今年は前年開幕戦鈴鹿の203kmから300kmに延長となるロングレース。ミディアムタイヤとソフトタイヤの2種類の使用が義務付けられ、スタート、チーム戦略、ピットストップだけでなく、運やタイミングも行方を左右するだろう。

2列目3番グリッドからスタートの野尻選手はミディアムタイヤでスタート。素晴らしい蹴り出しを見せたが直後に大きく失速し7番手にまで順位を下げる。スーパーフォーミュラ初レースとなる松下選手はソフトタイヤを選択し1ポジションアップの好スタート。レースペースも速く、序盤から追い上げる戦略だが、ペースの上がらないライバルに阻まれ思うように順位を上げられないと判断。15周目にピットインしミディアムタイヤへ履き替えてレースに復帰した。上位7台の中では唯一44秒台のタイムを刻み、着々とマージンを得ていた野尻選手は30周目にピットインし、ソフトタイヤへ交換。全車がピットインを終了した35周目には3番手と、スタートの出遅れを取り戻した。

何とかギャップを詰めて2番手を目指した野尻選手だったが届かず3位でゴール。

松下選手はシングルフィニッシュが見えていた終盤に自身のミスからスピンしてしまう。コースに戻ってレース継続したものの、12位でスーパーフォーミュラ初レースを終えた。

#### 5：野尻選手 3位 (HONDA 勢2位)

まずは素晴らしいパフォーマンスを発揮できる車を準備してくれたチームとサポート下さる協賛企業様に感謝しています。スタートの出遅れはすべて私のミスでとても悔しいですが、レース中は冷静に状況判断しプッシュし続け、3位までポジションを戻すことが出来たのは、次に繋がる結果だったと思います。

悔しさと同時に、良い緊張感をもってチーム一丸となって、車体も自分自身も前進を続けます。

#### 6：松下選手 12位 (HONDA 勢5位)

ミディアムタイヤでもソフトタイヤでも良いペースで走ることはできたのですが、決勝レース中多くの周回でペースの遅いドライバーを思うようにパスできず、後半では自分でもミスをしてしまい、予選のタイミングも含めスーパーフォーミュラの難しさを感じています。ただ週末を通してポジティブな感触を十分つかむことが出来たので、コース特性の違う、次戦オートポリスでも、引き続きモチベーション高く臨みます。